

## 〔D年〕復活節第4主日(2020年5月3日)

## 【旧約聖書日課】イザヤ書 62章1～5節

- 1 シオンのために、わたしは決して口を閉ざさず  
エルサレムのために、わたしは決して黙さない。  
彼女の正しさが光と輝き出で  
彼女の救いが松明のように燃え上がるまで。
- 2 諸国の民はあなたの正しさを見  
王はすべて、あなたの栄光を仰ぐ。  
主の口が定めた新しい名をもって  
あなたは呼ばれるであろう。
- 3 あなたは主の御手の中で輝かしい冠となり  
あなたの神の御手の中で王冠となる。
- 4 あなたは再び「捨てられた女」と呼ばれることなく  
あなたの土地は再び「荒廃」と呼ばれることはない。  
あなたは「望まれるもの」と呼ばれ  
あなたの土地は「夫を持つもの」と呼ばれる。  
主があなたを望まれ  
あなたの土地は夫を得るからである。
- 5 若者がおとめをめとるように  
あなたを再建される方があなたをめとり  
花婿が花嫁を喜びとするように  
あなたの神はあなたを喜びとされる。

## 【使徒書日課】ヨハネの黙示録 3章14～22節

14ラオディキアにある教会の天使にこう書き送れ。  
『アーメンである方、誠実で真実な証人、神に創造された万物の源である方が、次のように言われる。15「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。16熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている。17あなたは、『わたしは金持ちだ。満ち足りている。何一つ必要な物はない』と言っているが、自分が惨めな者、哀れな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者であることが分かっている。18そこで、あなたに勧める。裕福になるように、火で精錬された金をわたしから買うがよい。裸の恥をさらさないように、身につける白い衣を買い、また、見えるようになるために、目に塗る薬を買うがよい。19わたしは愛する者を皆、叱ったり、鍛えたりする。だから、熱心に努めよ。悔い改めよ。20見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。21勝利を得る者を、わたしは自分の座に共に座らせよう。22わたしは勝利を得て、わたしの父と共にその玉

座に着いたのと同じように。22耳ある者は、「霊」が諸教会に告げることを聞くがよい。』』

## 【福音書日課】ヨハネによる福音書 21章15～25節

15食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。16二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。17三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロは、イエスが三度も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何かもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。18はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」19ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。

20ペトロが振り向くと、イエスの愛しておられた弟子がついて来るのが見えた。この弟子は、あの夕食のとき、イエスの胸もとに寄りかかったまま、「主よ、裏切るのはだれですか」と言った人である。21ペトロは彼を見て、「主よ、この人はどうなるのでしょうか」と言った。22イエスは言われた。「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい。」23それで、この弟子は死なないというわきが兄弟たちの間に広まった。しかし、イエスは、彼は死なないと言われたのではない。ただ、「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか」と言われたのである。

24これらのことについて証しをし、それを書いたのは、この弟子である。わたしたちは、彼の証しが真実であることを知っている。

25イエスのなされたことは、このほかにも、まだたくさんある。わたしは思う。その一つ一つを書けば、世界もその書かれた書物を収めきれないであろう。

## 「聖書協会共同訳」(2018年版) 読み比べ

## イザヤ書 62章1～5節

- <sup>1</sup> シオンのために、私は口を閉ざさず  
エルサレムのために、私は沈黙しない。  
その義が光のように現れ  
救いが松明のように燃えるまで。
- <sup>2</sup> 国々はあなたの義を見  
王は皆、あなたの栄光を見る。  
あなたは、主の口が定める新しい名で呼ばれる。
- <sup>3</sup> あなたは主の手の中で誉れある冠となり  
神の手のひらの上で王冠となる。
- <sup>4</sup> あなたは二度と「捨てられた女」と  
言われることはなく  
その土地は二度と「荒廃した地」と  
言われることはない。  
あなたは「私の喜びは彼女にある」と呼ばれ  
その土地は「夫を持つ者」と呼ばれる。  
主の喜びがあなたにあり  
あなたの土地は夫を得るからである。
- <sup>5</sup> 若者がおとめの夫となるように  
あなたの子らがあなたの夫となり  
花婿が花嫁を喜びとするように  
あなたの神はあなたを喜びとされる。

## ヨハネの黙示録 3章14～22節

<sup>14</sup> ラオディキアにある教会の天使に、こう書き送れ。  
『アーメンである方、忠実で真実な証人、神に造られた  
ものの源である方が、こう言われる。<sup>15</sup>「私はあなたの  
行いを知っている。あなたは、冷たくもなく熱くもない。  
むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。<sup>16</sup>熱くもなく  
冷たくもなく、生温いので、私はあなたを口から吐き出  
そう。<sup>17</sup>あなたは、『私は裕福で、満ち足りており、何  
一つ必要な物はない』と言っているが、自分が惨めな者、  
哀れな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者であるこ  
とが分かっている。』<sup>18</sup>そこで、あなたに勧める。豊か  
になるように、火で精錬された金を私から買うがよい。  
自分の裸の恥をさらさないように、身にまとう白い衣を  
買い、また、見えるようになるために目に塗る薬を買い  
がよい。<sup>19</sup>私は愛する者を責め、鍛錬する。それゆえ、  
熱心であれ、そして悔い改めよ。<sup>20</sup>見よ、私は戸口に立  
って、扉を叩いている。もし誰かが、私の声を聞いて扉  
を開くならば、私は中に入って、その人と共に食事をし、  
彼もまた私と共に食事をするであろう。<sup>21</sup>勝利を得る者  
を、私の座に共に着かせよう。私が勝利し、私の父と共に

に玉座に着いたのと同じように。<sup>22</sup>耳のある者は、霊が  
諸教会に告げることを聞くがよい。』』

## ヨハネによる福音書 21章15～25節

<sup>15</sup> 食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨ  
ハネの子シモン、あなたはこの人たち以上に私を愛して  
いるか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、私があ  
なたを愛していることは、あなたがお存じです」と言う  
と、イエスは、「私の小羊を飼いなさい」と言われた。  
<sup>16</sup>二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、私  
を愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、私があ  
なたを愛していることは、あなたがお存じです」と言う  
と、イエスは、「私の羊の世話をしなさい」と言われた。  
<sup>17</sup>三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、私  
を愛しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「私を  
愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして  
言った。「主よ、あなたは何かもお存じです。私があ  
なたを愛していることを、あなたはよく知っておられま  
す。」イエスは言われた。「私の羊を飼いなさい。<sup>18</sup>よ  
くよくよく言うておく。あなたは、若い時は、自分で帯を締  
めて、行きたい所へ行っていた。しかし、年を取ると、  
両手を広げ、他の人に帯を締められ、行きたくない所へ  
連れて行かれる。」<sup>19</sup>ペトロがどのような死に方で、神  
の栄光を現すことになるかを示そうとして、イエスはこ  
う言われたのである。このように話してから、ペトロに、  
「私に従いなさい」と言われた。

<sup>20</sup>ペトロが振り向くと、イエスの愛しておられた弟子  
が付いて来るのを見た。この弟子は、あの夕食のとき、  
イエスの胸元に寄りかかったまま、「主よ、あなたを裏  
切るのは誰ですか」と言った人である。<sup>21</sup>ペトロは彼を  
見て、「主よ、この人はどうなるのでしょうか」と言っ  
た。<sup>22</sup>イエスは言われた。「私の来るときまで彼が生きて  
いることを、私が望んだとしても、あなたに何の関係  
があるか。あなたは、私に従いなさい。」<sup>23</sup>それで、こ  
の弟子は死なないという噂がきょうだいたちの間に広  
まった。しかし、イエスは、彼は死なないと言われたの  
ではない。ただ、「私の来るときまで、彼が生きている  
ことを、私が望んだとしても、あなたに何の関係がある  
か」と言われたのである。

<sup>24</sup>これらのことについて証しをし、それを書いたのは、  
この弟子である。私たちは、彼の証しが真実であることを  
知っている。

<sup>25</sup>イエスのなさったことは、このほかにも、まだたく  
さんある。私は思う。もしそれらを一一つを書き記す  
ならば、世界もその書かれた書物を収めきれないであ  
らう。

## 黙想のためのノート

## 次主日聖書日課について

・5月3日「復活節第4主日」の聖書日課主題は「弟子への委託」。キリストの復活顕現伝承は、キリストに従う弟子たちの宣教派遣命令を含むものとして、初期教会で共有された。もっとも典型的なのはマタイ福音書で、「週の初めの日」に女の弟子たちの前に現れられた復活の主イエスは、他の弟子たちとガリラヤでお会いするとの予告に基づいて、ガリラヤの山上で弟子たちに現れられ、そこでいわゆる「大宣教命令」を告げられている。ルカ福音書・使徒言行録は、ガリラヤでの復活顕現を伝える代わりにエルサレムでの復活顕現を伝え、なおかつ、復活顕現伝承の拡大として昇天伝承を挟んで聖霊降臨伝承を物語り、宣教派遣命令は聖霊降臨伝承の中に位置づけて描かれている。ヨハネ福音書は、これらガリラヤ復活顕現伝承とエルサレム復活顕現伝承の双方を伝え、それぞれにおいて宣教派遣命令を描いている。なお、マルコ福音書は復活顕現伝承を「ガリラヤでの顕現の予告」で終えており、弟子たちの宣教派遣命令等は、後代の付加部分(16:9以下)にのみ描かれている。

・弟子の宣教派遣命令は、旧約の預言者の召命派遣物語を再解釈することによって物語化されている。ルカ福音書の復活顕現・昇天・聖霊降臨伝承という構成によって描かれる宣教派遣は、明らかに、預言者エリヤと後継者エリシャとの間で繰り広げられる弟子の召命と活動の継承という物語を敷衍したものである。すなわち、エリヤはエリシャを弟子として召し出して従わせ(王上19章)、死(昇天として描かれる)を通してエリシャに霊的な力を託すが(王下2章)、その結果、エリシャは突然、驚くべき奇跡的な働きを始める。同様に、ルカ福音書・使徒言行録は、主イエスが弟子たちを召し出し従わせた後、死と復活・昇天を通して約束した聖霊を弟子たちに与えられると、弟子たちが主イエスと同様の奇跡的な働きを始めるようになったと描いている。このような構成における敷衍ではないが、旧約に描かれる預言者らの召命・派遣の物語は、さまざまな形で主イエスの弟子たちの召命・宣教派遣を物語るための素材として援用されたと考えられる。

・ところで、このような旧約物語を新約の教会が自分たち(弟子たち)の身に起こった出来事を物語るための素材として用いたであろうということは、歴史的な事象としての主イエスの出来事や初期教会の出来事を認める上で障害になるものではない。「歴史」は、そもそも、共同体としての基盤としての「過去」を共有するために「物語られる」(そして「聞かれ、伝承される」)ものであるから、共同体が新しく自分たちの経験した事象を物語るためにすでに共有してきた「歴史」の物語を援用して語り伝える以上に自然な方法はない。そうすることによって共同体としての連続性は維持される。

## 旧約日課(イザヤ62章より)

・「イザヤ書」は、前週に続いての日課設定。「イザヤ書」は、初期教会において主イエスの出来事を理解する上で重要な意味を与えた預言書。福音書がイザヤ書を引用して関連付けているのは、主イエスの降誕伝承(9章、11章など)、主イエスの先駆者としての洗礼者ヨハネに関する伝承(40章など)、受難伝承(53章など)など。また、主イエスの宣教活動に関する伝承においても、ナザレの会堂での説教で61章が朗読されたと描かれるなど(ルカ4章)、直接的な引用がされるだけでなく、比喩を用いた教えなどの背景にイザヤ書の影響が見られる場合が少なくない。

・日課箇所は、「イザヤ書」の第二部(「第二イザヤ」とみなされる部分(40章以下)の中でも後半部(56章以下)に置かれる。歴史的な背景は、歴史的預言者イザヤの時代(前8世紀後半)から200年近く下った前6世紀後半のバビロン捕囚から解放されたユダの民がエルサレムへの帰還と神殿再建を始めた時代にあると考えられている。この時代は、ペルシャの支配下にありながら南王国ユダの末裔が一定の自治を許されてユダの地に再住していく時期であるが、政治的な自律は事実上許されず、宗教共同体としての「ユダの民」の再建が模索されていた時期である。神殿再建はその一つの方途であったと考えられるが、もう一つの重要な方途が、「律法」および「預言者」と呼ばれる聖書正典を編纂し、法的小説および歴史的な形で「ユダヤ人」を規定するというものであった。南北王国の滅亡とアッシリア捕囚・バビロン捕囚を経て、歴史的なイスラエル・ユダの社会は事実上断絶していたが、「律法」と「預言者」という正典は、その過去のイスラエル・ユダの社会と再建される「ユダヤ人」共同体とを結びつける役割を果たすことになった(逆に言えば、そのことを目的として、「律法」と「預言書」が編纂され、宗教共同体の中心に正典として置かれた)。「イザヤ書」の第二部後半は、そのような「ユダヤ人」共同体再建という歴史的出来事の中で、目指されるべき共同体のあり方を指し示すために語られた預言の集成と考えられる。

・日課箇所に新共同訳は「シオンの救い」という見出しを付けている(聖書協会共同訳も同様)。ここで「わたし」と一人称で語っているのは、預言者である。この預言者の立場からの語りは前章(60章)から続いている。ただし、預言者の語りの中では、しばしば、主が「わたし」として語り始めることがある。厳密に区別されているのか、預言者が「主なる神の霊」(60:1)を注がれた者として主と同一化した立場で語っているのかは、解釈が分かれる。

・ここでは、神と民との関係が結婚関係を比喩として語られ、関係の「再建」が示されている。「ホセア書」に類似の比喩が見られる。新約では、主イエスと弟子たちの教会の関係が結婚で譬えられている。

**使徒書日課(ヨハネ黙示録 3章より)**

・「ヨハネの黙示録」は、「ヨハネ」の名が明確に付されていることから、「ヨハネ福音書」や「ヨハネの手紙」一～三を生み出したのと同じ「ヨハネの教会共同体」の中から生み出された書物とみなされてきたが、神学思想的な共通性は必ずしも高くなく、むしろ、関連する教会群(アジアの七つの教会)にはパウロ的な伝統の影響が強くあると考えられており、他の「ヨハネ」文書とは区別して受けとめられている。

・日課箇所は、本書の第一部で僕ヨハネが幻のうちに示された七つの教会に宛てる手紙の一つである。「ラオディキアにある教会」は、使徒パウロの書簡(コロサイ4章)でも取り上げられる、コロサイに近い都市の教会である(黙示録が取り上げる「七つの教会」は、いずれも、アナトリア半島西南部のエーゲ海に近い地域を環状街道で結ぶ都市にある)。ラオディキアは、紀元前3世紀のセレウコス朝シリア支配下に建設されており、比較的ギリシア文化の影響が色濃かったと考えられている。また、近郊の神殿には医学校が設けられ、特に眼病の治療で知られていたとされる。日課箇所中で「目に塗る薬を買うがよい」と言われているのは、そのような背景の中で、皮肉が込められているものと考えられる。また、この地域はたびたび大地震に見舞われており、紀元1世紀だけでも、17年と60年の大地震の記録があるが、60年の大地震では、帝国の支援を受けずに都市を再建したと伝えられるほど(タキトゥス『年代記』に報告されている)、裕福な都市だったと考えられている。

**福音書日課(ヨハネ 21章より)**

・日課箇所は、「ヨハネ福音書」の再末尾。21章の前半と場面設定は継続しており、ティベリアス湖(ガリラヤ湖)で大漁の奇跡と共に復活の主の顕現を認めた弟子たちが、食後の歓談をしているという状況である。

・ここで描かれるのは、主イエスと弟子のシモン・ペトロとの対話である。シモン・ペトロは「ヨハネの子シモン」と呼ばれている。マタイ福音書16章でシモンは「シモン・バルヨナ」と呼ばれており、同じ呼び方の変形と考えられる(「バル」は「息子」の意味。「バルヨナ」は「ヨナの子」。「ヨナ」はギリシア語化すると「ヨハナ/ヨハネ」)。しかし、本福音書中で繰り返し登場し、この場面でも取り上げられる「イエスの愛しておられた弟子」を「ゼベダイの子ヨハネ」であると理解する視点からは、初代教会で最初から弟子の筆頭とみなされていた「シモン・ペトロ」に対して、「彼もヨハネの子である」ことを強調して、ペトロの特別な地位を否定しているのだと解釈されることもある。ただし、それは、「ゼベダイの子ヨハネ」の優位性を主張しているということではない。本福音書では、他の福音書以上に「洗礼者ヨハネ」の役割が強調されており、主イエスは「洗礼者ヨハネ」の「後から来られる方」と呼ばれ、また最初の弟子

たちも「洗礼者ヨハネ」の弟子たちであった者と明確に示されている。つまり、主イエスとその弟子たちの教会は、「洗礼者ヨハネ」の後に出てきた(その意味で「子」である)者たちとして一様に位置づけられている。

・主イエスとシモンの対話でしばしば指摘されるのは、「愛している」と訳される語が、原語では、はじめの二度が「アガパオー」であるのに対して、三度目は「フィレオー」と変えられていることである。そこに福音書記者の意図をどう見るかは、意見が大きく分かれる。まったく特別な意図はないと見るのは断定的すぎるが、あまりに過大に意図を読み取るのも行き過ぎであろう。

**来週の誕生日 (5月3日～9日)****主日礼拝の讚美歌から**

・21-519 番「イザヤを招く神の声」(= I 392「神のみこえはむかしのごと」)は、20世紀前半に米国で活躍したユニテリアン派牧師 J.H.ホームズの作詞。19世紀ウェールズの音楽家 W.ロイドの曲と組み合わせられ、メソジスト讚美歌に採用されてきた。『21』編纂に際して、原歌詞に即して大幅に改訳されている。

**21-519「イザヤを招く神の声」****The Voice of God is Calling**

1. The voice of God is calling  
its summons in our day;  
Isaiah heard in Zion,  
and we now hear God say:  
"Whom shall I send to succor  
my people in their need?  
Whom shall I send to loosen  
the bonds of shame and greed?"
2. "I hear my people crying  
in slum and mine and mill;  
no field or mart is silent,  
no city street is still.  
I see my people falling  
in darkness and despair.  
Whom shall I send to shatter  
the fetters which they bear?"
3. We heed, O Lord, your summons,  
and answer: Here are we!  
Send us upon your errand,  
let us your servants be.  
Our strength is dust and ashes,  
our years a passing hour;  
but you can use our weakness  
to magnify your power.
4. From ease and plenty save us;  
from pride of place absolve;  
purge us of low desire;  
lift us to high resolve;  
take us, and make us holy;  
teach us your will and way.  
Speak, and behold! we answer;  
command, and we obey! (The United Methodist Hymnal #436)